

テーマ	一次骨折予防_Monitoring/Maintenance_地域連携		
執筆者の 所属と職種 および氏名	健愛記念病院 整形外科 医師 池田聡	執筆年月日	2026. 2. 20

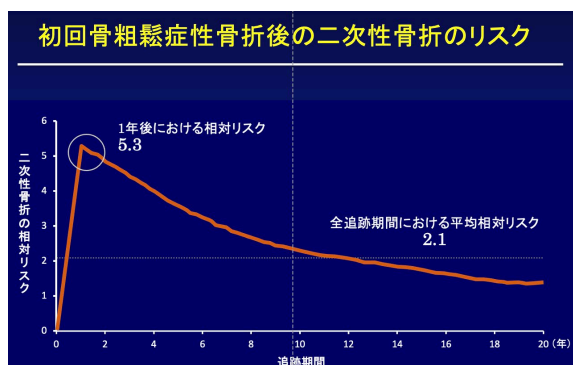
<ポイント>

- ・一次骨折予防の目的は、骨折を起こさせないことである
- ・そのためには、個々の骨折リスクを評価し、リスクに対応した治療介入を開始し継続していくことである
- ・これらを実践するためには、地域連携の構築が必須である

<本文>ここでは一次骨折予防のモニタリング・メンテナンスについて、述べる。厳密には一次骨折予防ではないが、いずれの職種においても 50 歳以降の骨折歴を確認することは重要であり、骨折歴があれば骨粗鬆症の評価をすべきである。

➤ モニタリング

一次骨折予防のために、DXA (Dual-Energy X-ray Absorptiometry)、生化学検査、骨代謝マーカー、転倒リスク評価等で骨粗鬆症・骨折リスクの状態を把握する。それらの結果を患者にわかり易い言葉で伝え、「自分事」として認識させることが重要である。そのためには医療従事者、介護職員が骨粗鬆症・骨折リスクについて十分理解しておく必要がある。特に重要なことは、高齢者において一度骨折を起こすと 1 年以内の再骨折のリスクが高まり¹⁾、再骨折により ADL (Activities of Daily Living) QOL (Quality of Life) の低下を招き、死亡率の上昇につながるということである。



➤ メンテナンス

骨粗鬆症治療の最大の課題は治療継続率が低いということである。1 年後には 45.2%が処方どおりの服薬ができておらず、5 年以内に 52.1%が脱落するとの報告がある²⁾。その原因としては、症状が乏しいこと、治療効果を実感しにくいこと、通院負担、副作用への不安などがある。このような服薬アドヒアランスの低さに対する対策としては、治療意義の意識づけ、骨密度や骨代謝マーカーの変化を共有すること、副作用のモニタリングが重要である。さらに服薬コンプライアンスの向上も重要である。例えば経口ビスホスホネート製剤は起床時（空腹時）、180cc の水で服薬し 30 分は仰臥位を避けるという特有の服薬方法であり、これが遵守されないと十分な治療効果が得られない可能性がある。さらに、半年に一回の皮下注射製剤であるデノスマブや骨形成促進剤（テリパラチド、アバロパラチド、ロモソズマブ）は中断すると 1 年で急速に骨密度が低下することが報告されている³⁾。

➤ 一次骨折予防のための地域連携

一次骨折予防のモニタリングやメンテナンスを実践するためには、単一の医療機関のみで完結することは困難である。特に服薬アドヒアランスやコンプライアンスの維持が困難な患者には骨粗鬆症や骨折リスクの高い症例が多く、地域連携が不可欠である。医療機関での評価をもとに日常生活における指導・管理が重要である。特に介護保険利用者では骨粗鬆症・骨折リスクの高い高齢者が多く、ケアマネージャーに加

えてディケア、ディサービス、施設入所の場合でも職員含め骨粗鬆症・骨折リスクの重要性を共有することが望まれる。

また、薬局での服薬指導・フォローアップも重要である。

このように「点の医療」から「面の予防」へと広げていくことが求められる。

そのためには地域での情報共通ツール（診療情報提供書、骨粗鬆症連携手帳など）の活用は、継続率の向上に直結すると思われる。

<事例>（想定事例を示します）

・事例 1

78 歳女性。ビスホスホネート内服中。自己判断で中断歴あり。

→薬剤師が服薬アドヒアランス低下を把握。副作用に対する不安を共有し、主治医と相談し薬剤変更。

→その後、3 年間骨折なし

（ポイント）

多職種の介入により一次骨折予防につながる

・事例 2

80 歳男性。骨折歴はないが、骨密度は骨量減少レベル。1 年以内の転倒歴あり。

→理学療法士による評価でバランス低下を認め、地域の転倒予防教室へ紹介。さらに、ケアマネージャーを通じて介護保険の活用で自宅改修（手すりの設置や段差の解消）を行った。

→半年後 TUG（Timed Up & Go）改善し、転倒歴なし。

（ポイント）

多職種の介入、ケアマネージャーとの情報共有、介護保険の利用により転倒予防対策が一次骨折予防につながる

参考文献

1) van Geel TACM, et al : Clinical subsequent fractures cluster in time after first fractures. Ann Rheum Dis 68 : 99-102, 2009.

2) 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2025 年版 : p 88

3) Laura P.B.E, et al : Bone Mineral Density Loss and Fracture Risk After Discontinuation of Anti-osteoporotic Drug Treatment: A Narrative Review. Drugs 81:1645-1655, 2021.

COI : あり 講演料 旭化成セラピューティクス、第一三共